

小学校外国語教育における Small Talk に関する考察

石森 広美*

A Study of “Small Talk” in foreign language education at elementary school

Hiromi ISHIMORI

要旨：本稿は2020年度より小学校外国語（英語）教育において推奨されている Small Talk のあり方や話題について、中学校1年生への調査から検討するものである。Small Talk では、児童が身近に感じ興味をもつものとして、「好きな食べ物・スポーツ・行事・夏休みなど休み中の思い出」等の話題が例示されているが、子どもたちには必ずしもそのようには認識されていないことが明らかになった。子どもたちが楽しいと感じることが重要であるとされる小学校外国語教育においては、発達段階を考慮した知的で思考を伴う要素を含めつつ、子ども側からも Small Talk やアクティビティのテーマ・話題を引き出す工夫が必要であると示唆される。

キーワード：小学校、外国語教育、Small Talk、話題、やり取り、楽しさ

1. 本研究の背景と目的

(1) 背景と目的

本稿は2020年度より小学校外国語（英語）教育において推奨されている Small Talk に関して、中学校1年生の調査結果から、そのあり方や話題について検討するものである。

小学校においては、2008年に告示・2011年から施行された学習指導要領により、小学校3、4年生において「外国語活動」が取り組まれていたものの、様々な課題が指摘された¹。そうして、2017年告示・2020年全面実施された学習指導要領において、外国語活動の開始が3、4年生（中学年）に早まるとともに5、6年生（高学年）は外国語「活動」から「教科」外国語となった。

中学年では「聞くこと」と「話すこと」を中心に外国語に慣れ親しみ、動機づけを高めたうえで、高学年では「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に学習を進めることが目指されている。また、言語活動として「聞くこと」「話すこと」と提示されていた領域が、「話すこと」を「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」の2つに分けた点も特徴的であり、グローバル化への対応として、「コミュニケーション」をより意識したものであると捉えられる。

その「コミュニケーション」の土台形成として注目されるのが、教師と児童あるいは児童同士がやり取りする短い会話、Small Talk である。Small Talk を成立させるには、対話をするための基本的な表現がある程度定着している必要があることは言うまでもないが、児童が興味をもち、話したい・伝えたいと感ずるかどうかが、話題（トピック）自体も鍵になる。文部科学省作成の『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』によれば、児童が興味・関心のある身近な話題として、「好きな食べ物・スポーツ・行事・夏休みなど休み中の思い出」等の話題が例示されて

1 主に、①中学校との接続で、音声中心で学んだことから文字への学習が円滑に進んでいない、②活動を通じて日本語と英語の音声の違い、英語の発音と綴りの関係、文構造に気付くこと、そして気づきを以降の学習につなげることがうまくできていない、③高学年の子どもたちは抽象的な思考力が高まる段階なのでより体系的な学習が必要、という点が指摘されている（文部科学省（2017b）、7頁）。

*宮城県仙台二華中学校・高等学校

いるが、実際にこれらの話題について児童たちは興味・関心を抱いているのだろうか、児童の興味・関心に合致しているとは限らないのではないだろうか。また、Small Talk の展開については多くの教員から寄せられる悩みの一つであり(町田, 2021)、検討すべき課題である。本研究はこうした課題意識に基づいている。

そこで、本研究では、2021年4月に中学校に入学した中学校1年生に前年度経験した小学校外国語の授業を振り返ってもらい、児童が興味・関心を抱くトピックについて探究し、新学習指導要領において重視されている「言語活動」の要諦となる Small Talk を有効に展開するためのヒントを得ることを目指す。

(2) Small Talk の目的

2020年からの小学校外国語(英語)教育では、場面における意味のある「やり取り」を通して、表現を学んでいくことが強調されている。Small Talk では、単なる「練習」や「繰り返し」ではない、真正な情報の授受や自分の気持ちの伝達、また必然性のある「やり取り」を行うことが求められている。既出の『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』によると、Small Talk は次のように説明されている。

「Small Talk とは、高学年新教材で設定されている活動である。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。また、5年生は指導者の話を聞くことを中心に、6年生はペアで伝え合うことを中心に行う。」(p.130)

また、同ガイドブック(p.84)には、Small Talk を行う意図としては、①既習表現を繰り返し使用できるようにして定着を図る、②対話を続けるための基本的な表現の定着を図る、の2点が掲げられている。小学校から高等学校まで一貫する英語教育の目標として設定されているのは、外国語による「コミュニケーション」を図る資質・能力の育成である。小学校高学年でその「基礎」となる力を育むために、必要と位置づけられるものである。「知っている」から「できる」へと転換された英語学力観を支えるうえでも、Small Talk が担う役割は注目すべきものである。一般的には、授業のはじめに行われる warm up 活動や前時の復習として取り入れることが多く、新表現の導入として用いられる場合もある。

これまでの外国語活動においても、新たな表現の導入の際等には、教師と外国語指導助手(以下、ALT)によるデモンストレーション等によって、Small Talk のような短い対話は実践されてきた。しかし、Small Talk については高学年新教材で設定されている活動であるため、これを直接研究対象とした先行研究は今後の蓄積が待たれるところであり、本稿はその管見を述べるものである。

Small Talk では、5年生は指導者のまとまった話を聞くことが中心であるが、6年生では児童同士がペアで自分の考えや気持ちを伝え合うことが想定されている。どのような話題であれば、児童同士が自分の考えや気持ちを伝え合い、会話を持続させやすいのか、児童の認識を探索することは、今後の Small Talk のあり方や活動の構想、ひいては授業研究に示唆があると考えられる。

2. 研究方法

以上を踏まえ、2020年度の小学校外国語(英語)を経験し、2021年度に宮城県仙台二華中学校に入学した中学1年生全員を対象に調査を実施した。

宮城県仙台二華中学校は宮城県仙台二華高等学校に併設する県立の中学校であり、適性試験(総合問題と作文および面接)によって入学者を選抜している。入学した生徒たちは総じて学習への意欲が高く、小学校時代も意欲的に授業に臨んでいたと推察され、調査によって明らかにしたい諸点について一定の情報が得られると想定した。

本研究では、中学校1年生の学年主任と英語担当教諭の協力を得て、新年度が始まってまだ間もない2週目に、時間割に組まれている英語の授業時間に、中学校1年生の英語担当教諭とALTに筆者が同行し、教室において直接の聞き取りと質問紙による調査、そして生徒たちによる Small Talk の会話文の作成活動を実施した。中学校

1年生の当該生徒たちは、約1ヶ月前までは小学校の外国語(英語)を学習していた「児童」であったため、学習内容についての記憶が新鮮であり、かつ小学生の気持ちを保持していることから、当事者意識がありながら学習の振り返りが可能である4月時点での中学校1年生を調査時期および対象者と設定した。調査の概要は次の表1の通りである。

【表1 調査概要】

調査時期と調査対象者	2021年4月16日(金曜日) 中学校1年A組(34名) ² : 1時間目の英語の授業 中学校1年B組(35名) : 5時間目の英語の授業 中学校1年B組(35名) : 4時間目の英語の授業 (調査参加者 中学校1年生合計104名)
調査方法	上記各クラスの英語の授業に出向き、下記の調査を実施 ① 聞き取り調査 ② 質問紙調査 ③ グループ活動(ワークシート作成)
調査内容	① 小学校の外国語が楽しかったかどうか、それはなぜか、意識調査 ② Small Talk の話題についての調査(小学校6年生の時に授業で扱った話題) ③ 自分たちが楽しいと思う話題
調査項目	① 小学校の外国語(英語)は楽しかったですか? なぜそう思いますか? (「楽しかった/楽しくなかった/まあまあだった」とそう思う理由) ② 小学校6年生では、身近な話題について、英語でやり取りする Small Talk という活動があります。あなたが小学校6年生だったとき、英語の授業でどんな話題についての Small Talk をしましたか? 思い出して番号に○をつけてください。 1. 好きな食べ物 2. スポーツ 3. 行事 4. 夏休みなど休み中の思い出 5. その他 (記入してください) ③ 小学校6年生が短い会話(Small Talk)を練習するとき、どんな話題がいい(楽しい)と思いますか?
<p>タスクと活動: 自分たちが楽しいと思う話題での Small Talk の会話文の作成(3~4名のグループワーク) ワークシートに記載した Small Talk の例³とタスク あなたが先生になったとあって、Small Talk を教える最初のところを考えてください。</p> <p>先生は、相手のいうことを繰り返すなどして確認したりする工夫をしてください。 話題は、小学校6年生が興味をもちそうなことなら、なんでもいいです。 次の会話が例です。 会話文は友だちと一っしょに考えて、書いてください。</p>	

2 1年A組も他クラス同様に在籍生徒数は35だが、当日は1名欠席していた。

3 この Small Talk の例は、文部科学省(2017)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』85頁より引用。

T は Teacher (先生)

T: Did you enjoy your summer vacation?
I went to Tokyo. It was fun!
How about you Kota?
Kota: Amusement park. Fun!
T: Oh, you went to the amusement park, and it was fun.
That's nice.
How about you, Miki?
Miki: I went to Okinawa. It was exciting!
T: You went to Okinawa. That's good. OK, please talk about your vacation.

(注) タスクに取り組ませるにあたっては、はじめに中学校 1 年生の英語担当教諭と ALT そして筆者がこの Small Talk を生徒の前で実演しながら、会話の流れや中身、またタスクの内容について説明した。

3. 結果・考察

以下、各設問に沿って、調査結果を分析していく。

(1) 小学校の外国語が楽しかったかどうか、それはなぜか。この質問に対しては、表 2 のような回答が得られた。

【表 2：小学校の外国語が楽しかったかどうかと主な理由】⁴

<p>楽しかった 25名 (24.0%)</p>	<p>ゲームをしたりするのが楽しかったから。(多数) 遊びが多かったから。(複数) 友だちと話し合えたから。(複数) いろいろな発見があったから。新しいものにワクワクしたから。(複数) スピーチをする機会が多かったから。(複数) ALT の先生とたくさん話せたから。 You Tube用に撮影したり体験が多かったから。 自分の考えた文章を身振りや手振りをつけて発表するのが楽しかったから。 イラストを描いて友人に見せながら発表するのが楽しかったから。 先生にほめられて自信がついたから。 洋楽が好きだったから。</p>
<p>楽しくなかった 45名 (43.3%)⁵</p>	<p>先生がたくさん話していたから。先生が一方向的に話していたから。(多数) 文を読むだけ/会話の形を覚えるだけで意味がわからなかったから。(多数) 簡単だったから。(複数) 英語の授業なのに日本語ばかり使っていたから。(複数) 歌ばかりでつまらなかったから。(複数) 同じことの繰り返しだったから。(複数) 考えることがなかったから。(複数) 説明がなくて何を学んだかよくわからなかったから。(複数) 友人と交流することが少なかったから。いつも動画をみるだけだったから。 内容がつまらなすぎたから。 ゲームばかりでつまらなかったから。 授業に参加して話すのが数人だけだったから、みんなやる気がなかった。</p>

⁴ 同様の回答が 2 名以上あった際は「複数」とし、5 名以上あった場合は「多数」としている。

⁵ 小数点第 2 位を四捨五入。

	先生の話すスピードがはやすぎて何をいっているのかわからなかった。 ALTの先生の機嫌がよかったりわるかったり極端だったから。 自分がぜんぜんできなかったから。
まあまあ 34名 (32.7%) ⁶	先生の発音が悪かったから。(複数) 日本語ばかりだったから。(複数) 同じことの繰り返しだったから。(複数) 歌やゲームとかは楽しかったが、英語の意味を教えてもらえなかったから。(複数) ゲームは楽しかったが、先生ばかり話していたから。(複数) やっていることが単純すぎたから。(複数) 日本人の先生とALTの先生だけが盛り上がっていたから。(複数) 発表するのは楽しかったが、先生が一方的に話すことが多かったから。 文法などの知識を教えられないまま、ただ会話をしていたから。 ずっと遊んでいたから。 面白かったけど、簡単だったから。 先生の発音と教材の発音が合っていないで混乱したから。 ALTの先生がスマホゲームをしていて不快だったから。 教え方が悪かったから。 わからないのにどんどん進むから。

表2が示す通り、小学校の外国語の授業が「楽しかった」と答えた生徒は、104名中25名、全体の24%にしか過ぎない結果である。「楽しくなかった」と回答する生徒が最も多く45名であり、全体の43.3%を占めた。「楽しかった」という感想に結びつかなかった要因は多岐にわたっているが、その理由は、主に次の3点に集約できる。

(1) 先生が一方的に話す(児童の活動ややり取りが少ない)こと、(2)単純かつ同じことの繰り返しであること、(3)思考や理解、納得につながらないこと、である。(2)と(3)はいずれも、好奇心の喚起につながる活動や知的刺激が少ないことに起因するものである。

この結果は興味深いものがある。外国語活動においては、音声や基本的な表現に慣れ親しませることを重視し、それにより高学年以降の外国語学習につながる聞く力や話す力を育むことが期待されている⁷。そして、高学年の外国語においては、言語活動を通して児童が簡単な語彙や基本的な表現を使って、自分の気持ちや考えを表現できるようになることが求められている。しかし、高学年になっても中学年の外国語活動の延長のような単調な授業では、児童は満足しない。小学校高学年になると、単純なチャンツや歌、定型の繰り返しだけでは興味は持続しにくく、また、意味や理解の伴わないパターン・プラクティスの練習活動では学習意欲が向上しない傾向がうかがえる。「楽しくなかった」「まあまあ」と回答したその理由からは、児童は考えたり、意味を理解し納得したうえで自分のことを表現したり、友人やALTとやり取りしたいと望んでいることが読み取れる。

また、小学校6年生においては、Small Talkは主に児童同士がやり取りする活動として位置づけられているが、「先生が一方的に話す(児童の活動ややり取りが少ない)こと」が「楽しくなかった」主因の一つに挙げられている。児童の前で教師が(時にALTとともに)デモンストレーションし、モデルを見せることは、児童の理解を促す意味で不可欠である。しかし、そればかりが強調されると逆効果につながりかねないことを、この調査結果は暗示している。他方、「楽しかった」と回答したその理由の記述からは、自分のことを発表したり、友だちと話したりする活動が多く与えられると、「楽しい」と感じることにつながる可能性も看取できる。

6 小数点第2位を四捨五入。

7 文部科学省(2017)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』12頁。

(2) Small Talk の話題についての調査 (小学校6年生の時に授業で扱った対話の話題)

文部科学省(2017)によると, Small Talk とは, 「身近な話題について, 主に児童同士がやり取りする活動」であり, 「好きな食べ物やスポーツ, その理由, 行事や長期休暇の思い出など, 児童が興味・関心のある身近な話題について, 自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で, 既習表現を繰り返し使用する機会を保障し, その定着を図るために行うものである」(p.84). 実際に小学校6年生の英語の授業でどのような話題について Small Talk が実施されたかを尋ねたところ, 表3のような回答が得られた.

【表3 : Small Talkで扱った話題】 (回答者104名, 複数回答)

● 好きな食べ物	84名
● スポーツ	77名
● 行事	86名
● 夏休みなど休み中の思い出	93名
その他 (自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己紹介的な内容 <ul style="list-style-type: none"> *好きな～ (食べ物・動物・色・テレビ番組・音楽・ゲーム・教科/授業・先生・国) 20名 *出身地 3名 *誕生日 3名 *趣味 3名 *欲しいもの 2名 *得意なこと 1名 ● 行ってみたい国・場所 19名 ● 中学校に関すること <ul style="list-style-type: none"> *中学校で入りたい部活動 23名 *中学校で楽しみなこと・頑張りたいこと 11名 ● 将来の夢 24名 ● 単元に合わせた内容 (食べ物の産地, 食糧事情, 食物連鎖, 栄養, 宝物など) 10名 ● 小学校の思い出 (修学旅行など) 7名 ● 朝食・夕食で食べたもの 6名 ● 日本の文化 2名 ● 今日の天気・今日の曜日・日付 ● 週末にやったこと

表3が示すように, Small Talk で扱った話題については文部科学省が例示する, 好きな食べ物, スポーツ, 行事, 夏休みなど休み中の思い出はまんべんなく扱われているようである. その他としては, 自己紹介的な内容が多く, 特に「好きなもの」に関するものは Small Talk の定番といえそうである. 好きなものは, 実際の国際コミュニケーションにおいても, 使用場面の多い話題であり, 交流の初期の段階では有益な表現内容である. 「将来の夢」についても, 将来の夢や職業についての単元 “What do you want to be?” (「第6学年外国語年間指導計画例 [案]」『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』p.58) に提示されており, 自分のことを表現するのに適切な話題といえよう. そして, 小学校6年生の外国語の特徴でもあるが, 中学校で入りたい部活動や中学校で楽しみなこと・頑張りたいこと等, 中学校生活への抱負に関する話題が着目される. これは, たとえば, 小学校6年生の文部科学省検定教科書『NEW HORIZON Elementary English Course』では Unit 8 “My Future, My Dream” で扱われて

いる。将来の夢と連動させて中学校で入りたい部活動を伝える活動が設けられており、小学校から中学校への接続が配意されている。教育接続という点からも有意義な話題だといえる。

また、その他に単元に合わせた内容として、食べ物の産地、食糧事情、食物連鎖、栄養、宝物等を挙げる生徒もみられた(表3)。単元の題材と絡めて、Small Talk が計画的に扱われたものと推察でき、Small Talk の話題が広範囲に及ぶことがわかる。実際に上述の教科書では、Unit 4 から 6 において「世界と日本」というテーマの下、世界と日本のつながりを考えさせる内容(地球に暮らす生き物、環境や食物連鎖等)が配列されている。こうした題材は他教科との連携を促進し、視野を拡大するものとして期待される。教科書の単元にある題材をトピックにし、Small Talk が各単元のなかで、単元で学習した語句や表現を活用して有機的に展開されていけば、コミュニケーションはより豊かになっていくだろう。

ここで、注意すべきなのが、あくまでこれは生徒の「記憶」に残っている話題であり、実際に扱われた事例数を表すものではない、という点である。この質問紙に回答している最中、何名かの生徒が「もう忘れた」と発していた。別の角度から捉えれば、自由記述欄に生徒が記入した内容(表3)は、児童の記憶や印象に残りやすい Small Talk の話題であるともいえよう。

以上を総括すると、思考や納得が伴う活動、そして児童が自己表現をしたり、友人とやり取りしたりする十分な活動を確保することにより知的欲求が満たされ、その学習活動に前向きになる可能性が指摘できる。成長とともに増大していく知的好奇心に対応しつつ、児童中心の活動を展開する工夫が必要とされるだろう。

(3) 「小学校6年生が短い会話(Small Talk)を練習するとき、どんな話題が楽しいと思うか」

この問い(自由記述)に対しては、表4の通り、ほとんどの生徒が「好きな○○」や「趣味」と回答した(カテゴリー1)⁸。たとえば、「好きなもの」「好きな音楽」「好きなゲーム」「好きな食べ物」「好きなアニメ」「好きなテレビ」「好きな人物」「好きな歌」「好きな本」「好きな季節」「好きな色」「好きな教科」等である。上記表3に示されるように、Small Talk で扱われた話題においても「好きな○○」はよく取り上げられたものとして記憶されているが、子どもが「楽しい」と感じるものは、指導のガイドブックに例示されている好きな「スポーツ」ではなく、むしろ好きな「音楽、ゲーム、アニメ」に回答が集中している⁹。

また、「○○」に相当する好きな「対象」は表4のように、多岐にわたっている。これに関連して、「趣味」という回答も多くみられた。「好きな○○」は趣味を構成する中心要素であるため、身近で話しやすい話題であると認識され、楽しいと感じる傾向にあるようである。この他には、一日の過ごし方、週末の過ごし方、休暇(夏休み等)に何をしたか、等の「○○の過ごし方」の回答(カテゴリー2)が複数みられた¹⁰。また、少数意見の着眼点も興味深い。

【表4 こどもたちが面白いと思うSmall Talkの話題(自由記述)】(回答者104名)

話題のカテゴリー	例
<カテゴリー1> 好きな○○ 趣味・特技	「好きなもの」「好きな音楽」「好きなゲーム」「好きな食べ物」「好きなアニメ」「好きなキャラクター」「好きなテレビ」「好きなマンガ」「好きな人物(歌手、アーティスト、お笑い芸人、芸能人、ユーチューバー等を含む)」「好きな歌」「好きな本」「好きな季節」「好きな色」「好きな教科」「好きな先生」「好きなお菓子」「好きな遊び」「好きな動物」「好きなことば」「好きな文房具」「好きな映画」「好きなスポーツ」 趣味・得意なこと

8 全体の約9割の児童が回答。

9 質問紙調査において「スポーツ」と回答した児童は、1名であった。

10 全体の約1割の児童が回答。

<p><カテゴリー2> ○○の過ごし方</p>	<p>一日の過ごし方・日課, 放課後の過ごし方, 家での過ごし方, 週末の過ごし方, 休暇(夏休み等)に何をしたか</p>
<p>その他 少数意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旅してみたいところ, 行ってみたい場所 (8名) ・今欲しいもの (5名) ・はまっていること (3名) ・自分の家族 (3名) ・恋について (3名) ・休み時間のこと (2名) ・今流行していること (2名) ・死ぬまでに一度はしたいこと ・一億円あったら何に使うか ・無人島にひとつだけ持って行くとしたら? ・面白かったこと ・今まで行ったところで楽しかった場所 ・印象に残った体験 ・人の秘密や自分の秘密 ・友だちのよいところ ・将来の夢 ・行事 ・ニュース ・世界のこと, 科学, 宇宙

以上のように, Small Talk で推奨される児童が身近に感じ興味を持つ「好きな食べ物・スポーツ・行事・夏休みなど休み中の思い出」等の話題は, 現実には子どもたちは必ずしもそのようには認識していない実態が明らかになった。もちろん, 個人の好みや志向は多様であり, 全員が共通して興味を抱くトピックやテーマは事実上存在しないかもしれない。しかし, 子どもの認識と大人の認識には少なからず「ズレ」があることには自覚的であるべきだろう。

実際に既習事項や使用できる語彙・表現の制限により, どの程度会話が成立するか不明ではあるものの, Small Talk を構想し学習計画に組み込む際には, 場合によっては児童に話題にしたいテーマやトピックを考えさせたり, 話し合っ決めてさせたりして, 児童側からアイデアを引き出したりすることがあってもよいだろう。自分たちの意向が反映された Small Talk やアクティビティであれば, 児童はオーナーシップ意識をもち, より意欲的に参加することが期待される。しかし同時に, Small Talk は, ウォームアップや導入で扱われることが一般的であるため, 慣れ親しんだ(あるいはこれから慣れ親しんでいく)表現に一定程度焦点化することで, 既習表現や対話を続けるための基本的な表現の定着を図るねらいがある。そのことを考慮すると, 話題と学ばせたい表現をうまく融合する仕掛けが必要であることに, 留意しなければならないだろう。

4. まとめ

新学習指導要領では, グローバル社会におけるコミュニケーションがより重視され, 小学校中学年・高学年, 中学校, そして高等学校と学年・校種が進むのに合わせて, 発達段階を考慮し, 段階的に, 題材や語句, 表現, 話し方などのレベルが徐々に高まっていくよう領域別目標が設定されている。本研究からは, 発達段階を意識した内容の吟味や指導の重要性がいつそう浮き彫りとなった。小学校高学年になると, 分析的・論理的思考ができるようになってくるため, 思考力を伴うようなより知的で豊かな言語活動を求める傾向が認められた。村野井(2018)は,

発達段階に応じた英語指導について、「小学校中学年と小学校高学年では認知発達の段階も異なるため、英語活動に対しても配慮が必要である」(p.27)としたうえで、小学校高学年では「多くの例に触れながら言語の規則性について発見させたり、日本語と英語の違いについて考えたりする活動も可能になってくる」(p.27)と述べている。また、泉(2017)も発達心理学の観点から、高学年では「他教科の内容と関連づけ、(中略)既知の知識を活用しつつ言語を用いて認知的・分析的な活動を行うとよい」(p.23)と提案している。今回の調査結果は、それを裏付ける具体の一端を示すものとなった。

調査対象者となった中学生は、入学選抜試験に合格した者であることを鑑みると、より知的なものを志向する面があることは否定できず、一般の小学生の認識を代表するものとは断定できない。しかしながら、子どもたちの生の声は、授業構想や教材研究をしていく際の手掛かりとなる資料を提供するものであり、耳を傾ける価値はある。話す相手、状況や場面の設定等に変化を加えるなどして飽きさせない工夫を施しながら、児童が外国語を使って自己表現をする喜びやことばを交わし合っ、人とやり取りする楽しさが感じられる、そして必然性と意義のある小さなコミュニケーション体験を積み重ねさせていきたい。

楽しく意味のある活動で脳を活性化し、学習意欲を高めながら知的好奇心を刺激しうる話題や学習活動、教材とはいかなるものかを、教師は子どもたちをよく観察しながら検討し続けなければならないだろう。そのためには、教師のセルフチェックや振り返りに加えて、子どもたちからのフィードバック、また同僚によるフィードバック、さらには同僚との協働的なアセスメントが重要である。

なお、本研究において生徒たちがグループワークで作成した Small Talk の会話例については、紙面の都合上、別稿に譲ることとする。

【引用文献】

- 樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子編著(2017)『新編 小学校英語教育法入門』研究社
 町田智久(2021)「教科書活用の3大悩みポイントとは?」『英語教育』Vol.70 No.7大修館書店, pp.6-7
 村野井仁編著(2018)『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店
 文部科学省(2017a)『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』(平成29年6月30日)
 文部科学省(2017b)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語活動編(平成29年7月)』